

## 名島橋

所在地 東区名島四丁目  
所有者 建設省福岡国道工事事務所  
設計・施工者 建設省福岡国道工事事務所  
(平成6年の改修に関して)



昭和8年に架橋されて以来60年もの歳月、福岡のまちと人々の生活を見守り支え続けて来た名島橋。この名島橋が建設された当時の資料を隠れてみると、「地元の人々・設計者・工事主任・大工さん・石屋さん・作業員の皆さんが一丸となって建設された」と書かれていた。そして平成6年の復元には、多くの市民より寄せられた架橋当時の写真や貴重な資料、化粧直しのアイデアをもとに作られたという。この名島橋の建設及び復元には権力者や設計者のおごりは存在せず、橋と地元の人々の情熱を傾けた非常に良い関係を感じた。この橋が60年もの時間の流れの中で自然環境、周辺景観との調和を崩すことなく永らえてきたのである。このたびの復元も橋づくりと復元技術つまり文明と、その文明に命を吹き込む文化がうまく重なり合ったものになった事象だと考えるのではないだろうか。

(審査委員 河地洋子)

## 福岡大学60周年記念館

所在地 城南区七隈八丁目19番1号  
所有者 福岡大学  
設計者 株式会社横総合計画事務所  
施工者 竹中・日本国土開発・不動・原田・龍・岩崎建設工事共同企業体



都市景観の良し悪しを論ずるにはさまざまな視点がある。建築は都市景観に大きな影響を与えるが、その評価は慎重でなければならぬ。良好な景観形成との関係からいえば、いかにも奇抜で、自己主張の強い建築の構想ばかりに疑問を抱く人も少なくない。一方で、すぐれた建築の存在が周辺の環境の質を確実に高めることがあることも、決して軽視されてはならない。そのことを明快に示しているのがこの建物である。

大学のキャンパスの一角に立地するこの建物は、周辺に快い緊張感と落ち着いた心地良さを醸し出している。魅力ある景観形成のための建築デザインの内り方を静かに語りかけてくれる。都市景観を導く上で市民共有の生きた「教材」になるためにも、この施設が広く開放され、一般市民にもなじみのある建物になってほしいと願うものである。

(審査委員 岡 道也)

## 見て歩き座談会

### 温かさや人間味を大切に

本日は一般の景観ウォッチャーの皆さんに、97年度の都市景観賞受賞作品を見て歩いていただきました。これから、審査委員長の中村先生も交えてお話をうかがいたいと思います。最初に、それぞれの印象に残った作品をお聞かせください。

渡邊..個人的には「名島橋」が選ばれたのが印象深いですね。住んでいる場所に近いこともありですが、こうした歴史ある作品も対象になると分かってうれしくなりました。

末次..私も「名島橋」が好きです。夜に街灯がともったときなど、ホッとする明るさでぬくもりを感じます。他の作品では「浄水オークパティオ」ですね。曲線を使った内部が開放的でよかったです。中庭にもう少し緑があると、さらに潤いのある空間になったかもしれませんね。

稲永..私も「浄水オークパティオ」がいいと思いました。マンションという四角いイメージがありますが、内部の空間が広くて、外観からの印象と違いました。

— その他の印象はいかがでしょう？

渡邊..「宮瀬内科クリニック」は前面道路を意識した造りでおもしろかったですね。

中村..周囲の雑然とした中にあの建物があるのがおもしろいところだと思います。

稲永..あそこは通りから見ると雑誌で見るような建物で、人間的な温かみを感じられなかったので

座長

福岡市都市景観賞  
審査委員長 中村 善一

景観ウォッチャー(写真右から)

九州産業大学

スペースデザイン学科3年

末次 真由美

会社員

稲永 圭子

九州産業大学建築学科4年

渡邊 健一郎



名島橋(東区名島)

## シーサイドももち海浜公園

所在地 早良区百道浜二丁目地先ほか  
所有者 福岡市  
設計者 株式会社総合設計研究所九州事務所(緑地)  
三井共同建設コンサルタント株式会社九州支社(人工海浜)  
はかた夢松原の会(クロマツの植栽)



シーサイドももち海浜公園のすばらしさは、それが人工的に創られた海辺空間であるにもかかわらず、そのスケールの広大さ、施設と緑と砂浜と海のシームレスな構成とロケーションにあるといえる。着工から10余年の時の中で人工の自然が本来の自然と同化し、波にもまれて、福岡という都市の景観にとって、今やなくてはならないひとつの海のシーンとなっていった。

(審査委員 田崎順二)

## 宮瀬内科クリニック

所在地 中央区平尾二丁目6番  
所有者 宮瀬崇弘  
設計者 田中俊彰設計室  
施工者 飛鳥建設株式会社



宮瀬内科クリニックは、至高通りから平尾駅に曲がる交差点近くにある。いわれなければ見過ごしてしまうような奥まった小さな建物だが、訪れてみて感心した。1階部分がすべて駐車場にして右手に小さなエントランスがある。2・3階の道路側はすべてガラス張り。さしずめ光の空間が中空に浮いているような開放感と清潔感がある。中の待合室からは、一面が差通しであるにもかかわらず往来の人々と巧みに視線がずれて、快適な境界が広がる。間口の狭さを相対的なコンソートで解消し、細部の仕上げにも質の高いセンスが感じられる。久しぶりに出会った小さな傑作で、まちかに溶け込みながら日常の生活を潤していく、これからの都市景観の在り方にひとつの指針を与えた。

(審査委員 佐藤 優)

すが、実際に近くに寄ってみると快適な空間で驚きました。

中村…人同味のあるホットな建物が少ないのが近代建築の特徴かもしれません。

渡邊…特に日本の建築物の特徴のような気がしますが、コンセプトで温かみをうたっているにしても、デザイン面では今一歩踏み込みが足りない。

中村…その点、「名島橋」にはデザインの力量があります。御影石を使っているのに温かみがある。改修に当たってもやたらに近代化せず、復元の手法を誤らなかつたのがいい。私も「名島橋」が選ばれたのはよかつたと思います。初めて古い建築物が評価されたわけですが、最近では古いものを評価する気運がありますから、今後は都市景観でも古い建築物の受賞作品が増えるかもしれません。新しい建築にもホットとする温かさがにじみ出るようになればいいですね。

## まちになじんでいるかで評価を

— 新しいものでは「福岡大学 60周年記念館」をどう思われましたか？

渡邊…建物としてはすばらしいと感じました。学校のオープン化を目指して造られた点が評価できるとは思います。実際にはこれからの使い方を見てもみないと何とも言えませんね。

末次…大学内にありますが、とても開放的でどこかのコンサートホールのようにでした。ただ学生以外の利用者がいたらもっとよかつたと思います。桶永…私としては何で選ばれたのかな、という感じですね。学校のオープン化が評価されたこの



宮瀬内科クリニック  
(中央区平尾)

## シーサイドももちアクアコート

所在地 早良区百道浜三丁目4番、5番  
所有者 シーサイドももちアクアコート管理組合  
設計者 積水ハウス株式会社 株式会社三島設計事務所  
施工者 清水・竹中・銭高・九州建設工事共同企業体  
清水・鹿島・日本国土開発・東建設工事共同企業体



私たちの生活から、長屋文化の伝統が消えてしまったのはいつごろからだろう。考えてみれば惜しいこととしたものである。共に住まう工夫こそ、いま都市の豊穡をつくる原動力になるはずなのに。

都市の集合住宅にとって一番の難関は、共有部分に住人がどのくらい共感を持ち続けるかではないかと思う。プライベートという名の孤独を好みがちな都市で、共通の街路や緑地は隣人との共感がなければ維持できない。

シーサイドももちアクアコートは、集合住宅のこの難関に、豊かな緑と豊穡を用意することで共感をつくることに成功している。また設計に際し、福岡市の公園緑地と上手な協同歩調をとっているというのには、失礼ながら行政もたまには味なことをするものだ。

共に住まう知恵として、住人がその維持に共感を持つる景観を準備するというのには、素敵なアイデアだと思う。

(審査委員長 山本智子)

## 浄水オークパティオ

所在地 中央区薬院四丁目2番26号  
所有者 森林都市株式会社  
設計者 有限会社武田設計  
施工者 三井建設株式会社九州支店



住宅街の入り口に位置し、ヨーロッパのまちなみの一角のような落ち着いた雰囲気のある集合住宅。しっとりとした質感のレンガタイルの外壁で風格を持たせる一方、道路沿いに緑地を設けて、9階建ての大建物が周辺住民に圧迫感を与えない。名称のパティオはスペイン語の住宅の中間のこと。船が泳ぐ池を構えた庭に直接太陽光が差し込み、中庭を取り巻いてゆるやかなカーブを描く各階の通路や手すりとともに、居住者にはゆつたりとした気分を与えているようだ。

ガウディ建築を連想させる曲線も含めて、スペイン風。住民も内部通路に花を置いてムードを楽しんでいるようだ。ただ、進行く人からは、自慢の中庭が見えないのが惜しい。内部が息通せる構造だと、より親しみを持たれたことだろう。

(審査委員 吉田 浩)



とですが、地域に開放されている感じがしませんでした。

中村…これまで学校の建築には既成概念がありました。それを打ち破るものとして評価しています。これからの時代をリードするものですね。ただし現時点では、まだまだ制度の垣根を越えられない部分があります。

渡邊…今回は造り手の意識を反映した作品が多く選ばれているような気がします。例えば「シーサイドももちアクアコート」は、住み手の立場に立ち、建物と建物をつなぐ空間を大切にしていますよね。建物だけはかっこいいけど、周辺に緑が少なく、生活感の薄い他の集合住宅とはひと味ちがうと感じました。

末次…私も同じような印象を持ちましたが、「エールガラ」が選ばれたことにはちよつと不満があります。新しい話題の建物なので、たぶん、審査対象にはなると思っていました。まだまだまちなじんではないような気がします。また実際の道路にアーケードをかけているわけですが、それを意識して利用している人は少ないんじゃないでしょうか。

中村…あそこは境界に活気をもたらした点で評価しています。都心部では実現しにくい大型アーケードを実現し、ひとつの建物の存在で地域の景観のみならず、人の流れを変え、都市の明るい軸をつくってくれた。

末次…新しいものだけでなく、完成して何年かたってまちなじむことで評価されるものもあると思います。そうした作品も大切にしてほしいですね。



浄水オークパティオ  
(中央区薬院)



シーサイドももちアクアコート  
(早良区百道浜)

### 上川端商店街 博多方言大型ペナント

企画者 上川端商店街振興組合  
関係者 鶴山幸全太夫(筆師)



「しろしい」「そうつく」…博多方言がアーケード中から下がつた。筆師・金太夫の文字に味がある。本来のアクセントを無視して名詞の語尾を上げたり「私たち」そんな関係？なのよ」と語尾を上げる半疑問形の变な日本語が流行する。こんなとき言葉本来の温もりを思い起こさせた試みは大ヒットだ。福岡に人が集まるというても、天神一帯集中、川端の商店街はさびしかった。ところが、キヤナルシティへの通り道にあたるので、人通りが戻ってきた。そのオープンに合わせて、方言が登場。翻訳はない。得ねる人には店が「博多方言原紙」を手渡す。通行客との交流をはかるなら、やりませぬ。これからもがんばれ、上川端商店街！さっしやいさすて？「せかせしや！」

(審査委員 吉田 浩)

### けやき通りのライトアップ等 景観整備及び環境向上運動

企画者 建設省福岡国道工事事務所  
けやき通り発展期成会



浄水通り、山登通りというような昔から知っていた通りのように、けやき通りという名前はない。いつのまにか私たちの生活のなかで定着している。こういうふうに通りの名前が認知されるには、やはり自分たちのまちという人たちの思いが必要なのだ。この運動を支えるけやき通り発展期成会の活動には、地方分権という難しい言葉の原点は、実はこういう自分たちのまちでの人の生き方なのだということ、あらためて考えた。

せいたくをいえば、けやき通りの周辺にも魅力的な通りとまちなみが続くように、延喜路上にある地区にこのような運動が広がっていくよう、先達である期成会と福岡国道工事事務所は、ぜひ助力をしていただきたい。ひとつの点であった場所が線となることで通りとなり、さらに面となることでまちとなつて、けやき通りを発信地とするまちづくりまで、とくち期待しています。

(審査委員 山本智子)

中村「シーサイドももち海浜公園」はまさにそうした受賞例ですね。都市景観賞の審査委員会でも求めるものが少しづつ変化してきています。その意味ではより市民サイドに近づき、共通点を見出そうとしているのではないのでしょうか。

### 市民のための都市景観賞へ

— 受賞作品だけでなく、都市景観賞自体についての意見があればお聞かせください。

渡邊「今回、シンボル部門やアメニティ部門など、部門の分け方が変わりましたが、この分類はなかなかいいと思います。ただ、名称がもっと分かりやすいもの、なぜ受賞したのかが一目で分かる名称であれば、さらに納得できると思います。今回の受賞作品でも、地域との密着が評価されたもの、試みとして評価できるもの、といった具合に受賞の理由が違うわけですから。

中村「部門や賞の分け方は非常に難しいですね。特に小さい審査対象などは分類に取まらない場合が多い。今回の「宮瀬内科クリニック」も、どの部門に入れるか検討しました。

末次「審査対象は建物だけなのですか？景観と言った場合、一本の樹木が受賞作品になってもいいような気がしますが。

中村「これまでも市民活動などが受賞したことがあります。ただ、都市景観賞ではものと人とのつながりを重視しています。ものを創り上げた人の努力を評価しようとしているのです。都市の中の構造物が人々に刺激を与え、ものによって感性が培われる。人々はその感性で新しいものをつくる。こうした、ものと人との相互作用が重要なのです。



率直な意見が出された座談会

### 福岡市都市景観賞 審査委員会委員

(左吉野、殿松略)

- 石井聖治
- 福岡市都市整備局長
- 岡 謙也
- 九州芸術工科大学助教授
- 河地洋子
- 香南女子短期大学教授
- 佐藤 優
- 九州芸術工科大学教授
- 竹下雄和
- 九州大学教授
- 田崎順二
- 株式会社造園コンサルタント
- 協会九州支部長
- 中村善一(委員長)
- 九州産業大学教授
- 山本智子
- 舟橋士
- 吉田 浩
- 西日本新聞社文化部長

## 都市景観賞が選ばれるまで

福岡市都市景観賞は市民の皆さんの応募に基づいて選ばれます。ここで、応募をいただいてから決定までのプロセスを紹介いたします。

### ● 第11回福岡市都市景観賞応募受付(写真)

1997年7月1日～8月15日

528通、206件の応募がありました。同時に募集した「第1回福岡市景観エッセー」には44人の方から46作品が寄せられました。また、応募期間中に、前年度の受賞作品パネル展を中央区天神の赤煉瓦文化館、福岡市情報プラザで実施しました。なお、応募要領・用紙は、毎年、イムズの福岡市情報プラザ、各区役所をはじめ、市の主な施設で配布しています。

### ● 応募作品写真展

展示及び審査用の写真パネル作成

### ● 都市景観賞応募作品写真展(写真)

9月24日～9月30日 イムズ7階 福岡市情報プラザ  
応募作品すべての写真を公開、会場で市民投票も実施しました。

### ● 第1回審査委員会(写真)

10月8日(一般表彰の第1次・2次審査)

写真展に使用したものと同じパネルで写真審査を行い、一般表彰の対象198件を17件に絞り込みました。また、写真展での投票結果で市民の評価が高かった9件の作品もあわせて最終審査に残すことになりました。

### ● 第2回審査委員会

10月17日(特別表彰と景観エッセーの選考)

特別表彰は、写真展でも掲示した概要の資料とスライド、ビデオ等をもとに、8件の応募のうち2件が選ばれました。エッセーは、46編の応募作品のなかから4作品が選ばれ「彩都」に掲載されることになりました。

### ● 第3回審査委員会

11月5日(一般表彰の現地確認と最終審査)

最終審査に残った20件のうち、審査委員がよく知っている物件を除く16件について現地を視察。その後、最終審査の結果、シンボル部門3件、アメニティ部門2件、

テーマ部門2件の計7件が選考されました。

● 審査委員会選考された一般表彰7件、特別表彰2件についての受賞者の特定作業(所有者、設計者、施工者、関係者の確認など)

### ● 記者発表 12月3日

市政記者クラブで第11回福岡市都市景観賞の決定と第10回福岡市景観エッセーの選考について記者発表。

### ● 表彰式及び記念講演会

1998年2月13日 13:30～16:00

福岡市健康づくりセンター・あいれふ「あいれふホール」

## 応募対象、部門及び審査基準(第11回)

### 一般表彰

#### ● 対象

福岡市内にある次のようなもので、福岡の個性的、魅力的な景観づくりに役立っているもの、並びに周辺環境やまちなみと調和し、その雰囲気を高めているもの。

・戸建住宅、集合住宅、店舗、商業ビル、ホテル、学校、病院などの建物

・住宅団地、商店街、通り、遊歩道、広場、公園、オープンスペースなどのまちなみ、空間

・塔、橋、モニュメント、広告、サイン、ストリートファニチャー類、樹木など

※ 文化財保護法に指定されたものや、すでに福岡市都市景観賞を受賞したものを除きます。

#### ● 部門

一般表彰の審査および表彰は、3部門に分けて次のような視点で行いました。

#### シンボル部門

福岡の景観形成をリードしているもの

- ① 海、歴史、風土に根ざした、福岡を代表する景観をつくりだしているもの
- ② 交流拠点都市にふさわしい活気のある景観をつくりあげているもの
- ③ すぐれた創造性により景観形成をリードしているもの

### アメニティ部門

地域の景観のアメニティを高めているもの

- ① うるおいのある環境をつくりだしているもの
- ② 地域の個性や文化性を生かし、高めているもの
- ③ 周辺景観やまちなみとの調和にすぐれているもの

### テーマ部門

(今回のテーマ)

景観形成のための積極的な創意工夫が認められる  
＜集合住宅＞

- ① 景観と居住環境を高める新しい取り組みが認められるもの
- ② 周辺環境への配慮にすぐれているもの
- ③ オープンスペースや緑化などによるうるおいのある空間を提供しているもの

### 特別表彰

・景観の魅力を高めている地域活動・イベント開催などの企画や行為

・すぐれた都市空間の創造・演出につながる企画や行為

・都市景観形成に関する知識の普及や意識の高揚につながる企画や行為

・自然景観、歴史的・伝統的景観の保全・創造に貢献している企画や行為

## 第12回(1998年度)福岡市都市景観賞について

一般表彰テーマ部門のテーマ: 広告・サイン

募集期間: 1998年7月1日～8月15日

応募作品写真展: 9月24日～9月30日

審査委員会(3回): 10月上旬～11月上旬

記者発表: 12月上旬

表彰式: 1999年2月

※以上の内容は予定です。

詳細は決定しだい、市政だよりなどでお知らせします。

皆さんのご意見は今後の都市景観賞に役立っていききたいと思います。本日は長い間ありがとうございました。■

中村…審査をしている我々にとっても、市民性をどう取り入れていくかは大きな課題です。やがては市民が審査員になる時代が来るかもしれません。そのためにもさまざまな方法を活用して、市民が選ぶ都市景観賞に近づく努力をしていきたいと思います。

来次…見学中にも意見が出たのですが、受賞作品を見て回るツアーなんかがあるといいですね。マップを活用した見学コースを設定するとか、市民が受賞作品に親しめる工夫があるといいですね。

渡邊…市民に広く知らせることを目的としているなら、選考方法にも市民を巻き込んだ活動がほしいですね。例えば、第一次審査はすべて写真で行っているようですが、建築に興味を持つ学生に現地を下調べに行かせる、写真では分からない部分も見えてくると思います。こうした活動で市民の意識も高まってくるんじゃないでしょうか。

福永…私はイムズの情報プラザで都市景観賞のことを知り、おもしろいなと思って応募しました。最初は単に景品目当てのようなどころがあつて2つの作品を推薦して、エッセーにも応募しましたが、実際に自分が推薦したものが審査のために写真になっていたりすると感動しましたね。いろんな人がこの賞のことを知っていただければ、たくさん推薦が得られたのではないかと思います。また、審査委員の方々だけでなく、市民の方々が対象作品をどう評価しているのか知りたいと思いました。



第1回審査委員会の様子



市民投票も実施した応募作品写真展



第10回の受賞作品パネル展も同時開催